

# ひろば

No.11  
1958  
11  
23

キネシオロジ研究会通信

「キネシオロジ研究会 発足  
一周年記念号」

## キネシオロジ研究会 一年の成果と反省

昨年十一月二十三日に久留米で開催された日本体育学会の部門別懇談会「身体運動学的方法」に集まった人々が、今後キネシオロジの研究についてお互りに連絡をとりあうことになり、ついでに研究をすすめていこうということになり、キネ研が発足したのであります。

この研究会には、スポーツの技術の研究が今まで科学的におこなわれてこなかったことに對する、  
その指導者としての要求の、  
身体運動について

の理論が、心理学や生理学などのバラバラな知識ではなく、運動技術の指導やホントのうづづけるべき、総合的な身体の理論がほしいという、  
現場からの要求が、いっぱいキネ研によせられて  
います。

キネ研は、これらの要求を組織して、要求にこたえろ、研究をすすめていかななくてはならない  
と思ひます。

そのために、ひろばをもつと充實させていくこと、  
研究の成果を、その過程を、問題意識の  
ところをもつとあつて、みんなが検討  
していくことが必要だと思ひます。

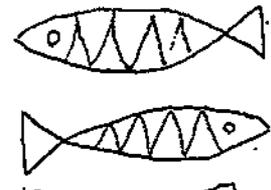
各地で、話し合ひ、共同研究をもつと  
して、あつていくこと、その様子を報告しあう  
ことも大切だと思ひます。

最近、現場の先生方の入会のおり、ことが特に目立  
つたことですが、キネシオロジがホントになるため  
に、あつとあつと知エと力をあつて下さい。

入会希望の方は所定の手続きを一通り済ませ、  
会費不要







談話室

○学会を迫り何かと多岐のこと  
と拝察いたします。キネシスロジ

研究文献目録の残部がございまして、一部お  
送り願えませんでしょうか。すつかりおそくな  
つてからの申込みで御迷惑のことと存じま  
が、宜しく御頼り申します。ひろは、毎号お  
送り下さりましてありがたうございませぬ。貴会の答  
展をへかう祈つて居ります。(會田 勝)

●キネシスロジ研究文献目録は、まだ次山残るが  
ます。送料とも 百円です。研究会宛一報下さ

△早速 貴重な研究物や、ひろはの機関紙ありかどう  
ござりました。すぐにカンパをさすべく、留意を致し  
ました。ヒリまがいて、すつかりおそくなり、お返  
ありませぬ。少々ですが、お送りいたします。東洋  
周辺の先生方や皆さまが、うらやましいと思ひます。  
研究懇談会に出たくとも、せうやういふ、は、  
残念です。皆さまによろしく。(堂下 祐美)

口... (このとス入、全...)

度と次第... (今日(水曜日)格闘士... 通知を留  
めて見ても所詮時既に遅しです。尤も是等の時に期日  
向きの事と思ひます。一応、向合せておくべきだつたか  
もし水曜日を、いよいよ此にしてと残念です。ごめいば、私  
も東京の田舎、僻地です。早目に通知を出  
して頂ければ大いに助かります。我が研究会も既に二年目の  
アニーサール...)

格闘士... (三回連続... 通知を未既達であることと今...  
読んで知り、三回連続... 通知を未既達であることと今...  
通知を未既達であることと今...)

△ひろは... (有難うございませぬ。学会の Symposium...  
られた幸、御同様に存じます。何かしたためようとして、つい失礼  
いたしました。小生、意見として、このひろは... 一十...  
した。 Kinesthology は、身体運動学... 一十...  
ます。学内での父や其の方法から考へて、みごと、身体運動  
カ学... 首飾、飯塚... 力...  
よ... 野口... 期...  
Kinesthology (Kin) の Kin の action study...  
した。編集の皆さまに、お苦勞さすませぬ。(野口 義之)

シロロジ研究会会員名簿

番号	氏名	所属	住所
1	加月 秋男	長崎科学芸芸部	
2	生田 清衛門	福岡造大(福岡)	
3	加藤 芳雄	拓殖大(東京)	
4	塩谷 宗雄	東京工業大学	
5	熊本 水頼	滋賀大学	
6	金原 勇	東京教育大学	
7	塚原 政義	神戸高科大学	
8	猪飼 道天	東京大学	
9	正木 健雄	東京大学	
10	首藤 一平	大阪支部	
11	小林 一敏	順天堂大学	
12	久内 武	順天堂大学	
13	飯塚 録雄	東京都立大学	
14	池田 一夫	早稲田大学	
15	福井 脩治	山口大学文理学部	
16	佐藤 宗蔵	帯広畜産大学	
17	高木 公三郎	京都大学	
18	伊藤 稔	京都大学	
19	木内 生	京都大学	
20	松井 秀治	名古屋大学	
21	岩田 敦	神戸大学	
22	宮畑 虎彦	文部省	

23	林 清	東京学芸大学
24	森 重 潔	東京支部
25	木村吉次	東京大学
26	渡辺俊男	お茶の水女子大
27	体育の科学社	
28	西山 実幾	天理大学
29	松本 芳三	東京教育大学
30	笹本 正治	金沢大学
31	矢部 俊政	金沢大学
32	石河 利寛	東京大学
33	日比野 湖郎	京都大学
34	山岡 誠一	京都学芸大学
35	蜂須賀 弘久	京都学芸大学
36	石井 喜八	東京大学
37	松延 博	東京教育大学
38	野口 義之	鹿児島大学
39	窪田 登	早稲田大学
40	道明 博	早稲田大学
41	門 輝子	金沢大学
42	加藤 博夫	共同通信社
43	水野 忠文	東京大学
44	永田 晟	東京大学
45	内海 千江	東京女子大学
46	阿久津 邦男	東京教育大学
47	浅見 俊雄	東京大学

48	野次典美	京産農業大学
49	川井浩	東京大学
50	田中久雄	富山大学
51	青木一三	早稻田大学
52	辻野昭	大阪学芸大学
53	山本久武	専修大学
54	板垣了平	東京教育大学
55	古藤高良	東京教育大学
56	菊地哲男	福島大学
57	渡辺大賀司	福島大学
58	坂井望	茨城大学
59	中西光雄	東京大学
60	多和健雄	東京教育大学
61	石田忠彦	阿比大学校
62	越智三王	日本体育大学
63	山川純子	東京大学
64	神田良生	早稻田大学
65	金子勉	新潟県立羽茂高
66	木透寿朗	同上
67	中村貞雄	Liederman Wael chil: 合唱 時文芸部教師
68	小沢重男	南野郡日野町 日野第二中学校
69	堂下拓美	赤平市教育研究所
70	横田弘道	菟美町三和町地
71	山内日吉	福岡学芸大学
72	岡田芳子	日本女子大学 聖マリアナ研究所



1958.12

# はろひ

N012

キネシオロジー研究会通信

## アメリカ力通信

### フラーブの子供達

シカゴにて 猪飼道夫

九月にシカゴに赴いて三三三二二二つての街を  
 歩いて一週間の旅をたづねた。うす黒い原  
 灰色の住居の道路で子供達が大きな遊具  
 場をして遊んでいる時でした。私は子供達にもと  
 りに、カレッソの別荘に多く住むニカラガ人  
 達の子供の遊具かと驚かしてしました。しかし  
 これは恐ろしいもので、歩道を歩く度に幾々が  
 つかつかくらいをす。すると、十月になつて  
 聖灰サンフランシスコからシカゴに到着しま  
 したが、フラーブ、シフランシスコで遊んで  
 人の米人の寺院も喜んでやうているとい  
 うのをしました。やがて、日本の友人達から  
 フラーブが日本で不流行だという知らせが来た  
 ので、つくりしました。日本が元か米道が元  
 の知りませんが、手を打つてよく似た現象が  
 あるものだと感じました。日本では、日本  
 まで来た。...

*My of Hula Hooping* という記事が来ました。  
 編を中代にした青巻と新聞を編いた西に方の  
 採用する方向と筋力の関係する方向がひきそ  
 えてあり、まふキネシオロジーといつたこと  
 うです。そして、まふキネシオロジーといつたこと  
 フービングは非科学的といふ意見の意見を身体  
 に与えるので、成人には、子供達の子供の遊  
 具として、は可能である。...

は Scope with ... The Analo ... (終)





キネシオロ ― 研究懇談会十二月例会

キネシオロ ― 二頁十九日六時から至大町キネシオロ会  
 会室にて、キネシオロスキーに出かけた人も、毎年  
 ともなう、一たりして、十六名しか集りなかつた。  
 結果は、先生の「柔道の古式の型と柔道体操」  
 で柔道の古式の型と空手の型から柔道的な動作をとり  
 出して、体操に組み立てたものを、実際にやり、それら  
 の要素や原理を説明してくれたので、とてもよく理  
 解できた。柔道や合気道は相手の力を利用して相手の  
 力で相手を制するのであるから、極めて力学の原理に  
 従っており、しかもからだの中で一番弱い関節を合理  
 的に用いるというのがそれらの技術の本質である。各  
 種の徒手体操は手足の動きにあまり意味がこめられて  
 いた面白くないが、この柔道体操では一つ一つの動き  
 が柔道の基本の技術につらなっているために、やる気  
 がおきるようである。またこの体操は講道館の技や柔  
 道が長だけでなく、その古式の型と合気の型から、動  
 きの要素と、出してあり、柔道の本家の型をのこし  
 ていこうといふのがおもしろいである。空手には足の技が  
 手るか合気道には足の技はなく、関節技と投技だけで  
 ある。だが柔道と習ったときには、技は詳細に、よ  
 りたものであるから、一河政か」といふような技師

への傾向は意外に評されず、技師の技を、その技も  
 ある技を一つ一つ憶えていったといふ。その技によつ  
 て教えられる技が、いかに、いかに、いかに、いかに  
 という番の話も出さぬ。技師の技は、いかに、いかに、  
 術にしようと思ふされた。そして、いかに、いかに、  
 版させられた。そして、いかに、いかに、いかに、  
 ナーとして興味ある問題だけでなく、いかに、いかに、  
 技能と技術のちがひといふ、技術の、また、柔道体  
 育での、技術といふことの、技術、技術は、いかに、  
 われろといふ前提だが、一方、河政は、いかに、  
 いかに、技術と、いかに、いかに、いかに、  
 いろいろと、いかに、いかに、いかに、

お知り、りせ

去年の体育学会のキネシオロデー集会で次の研究会  
 ひろはの講義を京都でやることになりました。今後  
 京都や函館は京都或は京都へお送り下さい。連絡が  
 悪く、おくれれて福すまません。

連絡先

東京都文京区本郷土町一丁目、東京大学体育学研究所  
 キネシオロ研究会 河政 通夫  
 京都市左京区西門 京都大学教育体育研究所  
 キネシオロ研究会 藤木 公三郎

# ひるは<sup>00</sup>

No.13

1959. 1.

## 甲 外着からの発言

江橋 慎四郎

私はキネシオロジイについて十分な理解を持ってゐるものではありません。そのように、あまり実体をよく知らないものが、何はそれの意見を述べるということとは、妥当なことではないかも知れませんが、私は私なりに、キネシオロジイの研究は、体育学の建設のための一つの望みなる点であると思ひますので、敢えて筆を執つた次第です。

実は、学会の研究討論会、「キネシオロジイの領域」についての報告をみて、一寸疑問に思つたのですが、野沢氏は、「心理、生理、物理、方学等の、一見全く無関係に見える各々の科学を体育にとり入れる事は、大に為く、行い難い事は周知の通りである。」と、で上記の如き

萬科学を体育の中に消化吸収し寫くするの化要素として、所謂キネシオロジイの領域が考えられてくる」と述べられていますが、本当にそうなのだろうかを、具體的な事実で示すことが大難題ではないでしょうか。私でも、体育の世界では、従来や、むしろ、科學的研究成果、事実のつみあげを大切にしないで、ある場合には、一人よがり、の独斷的意見が、つきからつきに出されて、庇接にいとまがなかつたとさえ云えることを経験しています。

私は、キネシオロジイは、体育における科學的研究を真摯に追求する一つの領域であると思ひ、是非とも、何に明らかになされた事実、法則の上になつてのみ、ものを云つてほしいと思ふのです。このような一つのならわしのできるならば、體育の科學化のために一番大功臣、だと思ひます。

\* \* \* \* \*







1959. 2. 3. 合併号

# ひ ろ は<sup>DD</sup> No. 14

キネシオロジー 研究会通信

## 門外者からの発言

を讀んで

加藤 芳雄

「ひろは」十三号の、内外者からの発言を讀んで感じたことを書いてみます。

江橋氏は、学会で行なわれたシンポジウム「キネシオロジーの領域」についての報告を見て、その中の野沢氏の分について

(1) 本当にそうなのかどうかを、具体的な事実で示すことが必要なのではないでしょうか。  
 (2) 科学的に明らかにされた事実、法則にたつてのみ、ものを去つてほしいと思うのです。文の始めでは甚だ謙談的に、最後は教示的に述べられています。

これについて、(1)に與すること、私の知っている限りでは、野沢氏が東京のキネ研で、「水泳の力学」の話題を自らの研究結果も加えて提供されている具体的事実、その折、エネルギー代謝の面からお話したかったと申されていること、またシンポジウムに參加される前に討論されている事実等から考えますと、どうも江橋氏の発言は、うらまて見

抜かれていない、当らない意見のように私は思えるのです。

具体的事実がもとにあつて、本番では抽象的に論を進められたと思うのですが、それが悪いというのなら話は別です。

それにしても「キネシオロジー」とは、その領域とは、と今その解明途上の過程にあるこの分野に於ては、わづらわしくも、具体性を欠如したアイデアのみの抽象論も、暫くの向材料を出して頂くことは許されるべきだと私には思えるのですが、敢えて具体性、事実法則性を強調される発言者が、その発言の中では、具体的に申されているとは思われぬ一般論を掲げられているのはどういふことなのでしょう。私は具体的には？という質問の提出だけでよいと思つています。

(2)に與しては、現段階では、今理論構成をしようとし、その科学的説明を申めつゝある時と私は思うので、私はこう考える、といふことは、将来はそれが捨てられるとしても、不必要とはいへない切れないと考えます。而もキネシオロジーをどう概念づけるかについていろいろ意見があり、その爲にこそ、シンポジウムが持たれたのですから、全面的に賛成

ではないとしても、個々の人々にそれに對する用意が少し  
でもある場合には、よいアイディアがあれば、くみとれる  
のではないでしようか。

「科學的に明らかになされた事實、法則の上に立つてのみ、  
……ということになると——そしてこれは誰でも知ってお  
り、申すことなのです——キネシオロジイとは、その法  
則とは求めつつある道を今の場合内づきように息いませ、  
わずらわしさはこの場合いとわぬという態度はもてぬもの  
でしようか。」

江橋氏の発言は、体育の科學化のために、他の科學にひ  
けを取らぬ心構えを強調した點とは思いますが、内外者  
からの発言は、具體性、法則性、事實性からみてこれに  
完全にあてはまるかを思うとき、発言の意圖の那辺にある  
かを考えさせられました。

幸い、私は私なりにキネシオロジイ的研究は……とあ  
りますので、キネシオロジイとはどういう概念かを、これ  
を求めようと渴望している私達に具體性、事實性、法則性  
をもって御教示願えればこれに越した喜びはありません。

野沢氏が彼の意思に基いて研究実験し、それを私達に示  
しつつ、その上でシンポジウムでは抽象論になったのは  
それは表現のテクニクの肉體で、ことに領域というよう  
な向題については、抽象論になる性質をもっているようで  
すから、私は野沢氏の労を多とすることはあつても、他人  
攻撃には同情的な感情を抱いたので、江橋氏の申される、

「一人よがりの独斷的意見がつきからつきに出されて座  
席にいとまがない。ような発言として一顧もされないか  
も知れませんが、大方の叱咤を待つ意味で感想を述べて  
みました。(34・3・2)

お知らせ

「新体育」四月号はキネシオロジイ特集です。  
おひるはくに読後感より批判をよせて下さい。

キネシオロジイの語源

泉本 義彦

キネシオロジイの歴史

宮畑 隆雄

体育とキネシオロジイ

正木 健雄

生理學とキネシオロジイ

石河 利寛

キネシオロジイの解剖學

高木公三郎

力学からみたキネシオロジイ

小林 一敏

キネシオロジイの實際

松井 秀治

「體育の科學」三月号もキネシオロジイの研究  
をのせています。

投手骨折について

高木公三郎

野球の打撃についての考察I

宮池 哲男

砲丸投げの投擲角・最大距離・

初速度算の算出法

宮藤 一夫



ないような会であつた。結局問題はバネが必要だといふことになつたが、経理的にはよく知られ、また普通に使われている、いわゆるバネといふことについても、全くわれわれには何も明らかになつていないのだといふことを思いしらされた。

以上のような話し合いをさらに発展させ、問題の所在を明らかにしていこうといふことになり、次回は投擲について、久内武氏に問題提起をしてみようことになつた。

出席者二十四名



書評

松井孝治著「運動と身体の重心」体育の科学社・四。円  
本書の意義は、何といつても、写真の上で身体の重心を合成して推測しようといふ確証を与えたことであろう。

さらに身体の重心がいつも、へぞにあると信じている人達に、重心は時には身体の外に出ることもあるのだといふことを豊富な写真から十分納得させ、重心位置についての迷信を払拭するのに役立つだろう。また著者が多大のエネルギーを費して確立したこの重心合成法は、身体力学研究の基礎として更に大きな価値を帯びているといわなくてはならない。

しかし身体力学への応用といふことを考えると、どこから写真をとつてもいいといふわけにはいかず、合成し

た重心が価値あるものとなるためには、カメラの位置が問題になるが、こういう点についての示唆があれば実用に使であつたと思う。また、この重心を身体力学の研究にどう生かして行くのかについてはほとんどふれられていないうらみがある。この点は著者とともに、今後われわれに残された大きな問題といえよう。(「体育の科学」二月号九一頁から一頁転載しました。)



談話室

保健体育を専攻する一学生ですが  
先日発行された「体育の科学」11月号にキネ研の紹介がありました。私も以前よりキネシオロジーに関心をもつておりましたが、何か良いものがあればと思つておりました。  
佐藤 公一

宮畑 虎彦 先生、三九五円

原稿募集

いつの間にか「ひろば」も本紙で十  
四号を教えました。月刊の予定が、  
おくれがちで、今回も合併号になり申し訳ありません。  
寸言、短評、談話など、何でも結構です。おしどし原稿  
を左記へお寄せくださるよう、お願いいたします。

京都市左京区吉田本町

京都大学教養部体育教官室 ひろば編集係

1959.4

ひろば<sup>DD</sup>

No 15

キネシオロジ-研究会通信

## 腕立前方回転(鉄棒)の

指導 横田弘道

十月十六日(木)の昼食後の自由時、五年生(男子二十六名、女子二十八名)五十四名が笑顔で、中には目に涙をため私のいる職員室へとびこんで来た。そして口々に「H君が前回り(腕立前方回転)ができたよ。」と私に届けている。その瞬時こそ四月以来指導してきた腕立前方回転100%の目標の到達できた一瞬だった。

四月に五年生を担当することにきまり、体育科でとくに鉄棒運動を指導してみようと方針をきめてとりかゝった。特に小学校の体育指導では運動技術のすぐれた教師ほど優秀見をつくることもできるが、技術の遅れた子―鉄棒運動などに劣等感を持ち鉄棒から遠ざかりふれようとしない子―を多くつくるのではなからうか。私は全部の子が鉄棒が好きになるような指導はなにか、と考えてみた。五十四人の子どもがおたがいに助けあい練習しあい、どの教員もみんなできる。100%を目標に指導に当たってきた。十月頃までに腕立前方回転を全部の子にできるようにしてみた。と目標をたてた。

四月中旬子供の実態調査をしてみた。逆上がりのできる子が男子十二名、女子九名しかない。懸垂屈臂も男子平均二、三回、女子平均一、二回の低い状態であった。学級児童会を両き練習方法の話し合いをし、毎日天気の良い日には一五メートルのトラックを三回駆足でまわる、高鉄棒又は運梯で懸垂を落ちてもよい、一回ずつでもよいから十回練習する。又暇があれば鉄棒にぶらさがり、腕立懸垂から前まわりおりを静かに補助しあいながら行なうことを話し合い、実行に移った。教室には器械運動の技術進捗表を掲示し、できた子には〇印をつけることにした。特に鉄棒運動は逆上がり、腕立後方回転、足かけ上がり、足かけ回転(前、後)、背面逆上がり、腕立前方回転と順序を追い、指導しながら、できた子には〇印をつけていった。

週三時間の正課体育には、特に一学期は徒手体操(二人三人組で補助しあい行う柔軟体操を主とし)に力を入れ、臂の力、腹筋力、背筋力を強くする体操の指導を行なうことにし、補助をつけた倒立も行なってみることにした。その考か六月頃には懸垂屈臂も男子平均五、七回、女子平均五、二回に上昇し、補助

創立も全費でできるようになり、資財逆上ガリのほかに一  
 。%でできるようになった。そこで四月の下旬より、  
 六月の才三週から練習前、一回の指導に入った。五分は  
 は部活動にわけ、なおその中で男女にわけ、今までの  
 教授の優劣からすぐれた者と劣った者と二人組を作り、  
 お互に補助しあつて練習するように組織した。

正課時の指導で、「こつをおぼえるとたやすい種子であ  
 る」ことを知らせ、背すじをのびし教室の窓を見ながら  
 膝をまげ大きく回ること、手に力を入れすぎないように注  
 意する。そしてこつをおぼえるには練習回数を多くしな  
 くてはならないことも知らせた。そして毎日放課後練習  
 してあつて五十回ずつ練習することも話しあつた。ど  
 が一番早くみなでできるか競争もさせ、男女の競争もさせ  
 た。尚少し後になつたが、教師が示範した才一時の指導  
 でできた子は男で四名、女で一名しかできなかった。七  
 月末頃の調べで男子が七三%、女子が六六%の上昇であ  
 った。子どもたちの聲の夜は五回むけたというのがあり、  
 腹の皮までむけた子もあつたようだった。夏休みにも一  
 週間毎日一時陶器は資料の指導もしたが、できない子は  
 時々二人組で練習をしながら学校へきたようだった。

どの教科にも遅進児はある。特に体育の運動技能の面  
 では劣つた子がはつきりてくるものである。九月はこ  
 の調査では七月のデータより下回る級生一男子と二  
 %、女子五九%になった。その時は自分の指導方針は

違つていたようにも反省させられた。十時頃からは直射日  
 光のため鉄棒が熱くなるので正課体育も才二時限目に繰り  
 かえて行つた。その中に児童の中から放課後鉄棒が熱くて  
 練習できないから、鉄棒に心をゆいて割つた竹をかぶせよ  
 うと云ひだし、早速その通りやり、子供達とともに喜びあ  
 つた。九月三十日の技能テストの結果男二六名中二四名(八  
 九%)、女二八名中二五名(八九%)の成績だった。でき  
 ない子が男二名、女三名にまつた。ある父兄から子供が密  
 柑の木で回るので密柑が枯れそうだと困るとまで小言を  
 うけた。しかしどうかして五十四名の子にできないとい  
 う苦悶をとりぬき、何でも練習させればできるのだとい  
 う意気を感じさせた。一念に私の胸の中は燃えていた。

鉄棒の使用できる日には毎日五回名の手と示範させたり、  
 練習させたりに忙しかつた。十月中旬になつてきた子  
 が男一人になつた。等級の子も全体がその子一人をでき  
 るようにみんなで応援している。取組の中からも子供達  
 の神々しい練習ぶりに校長はじめの全職員が同聲をのんでい  
 る一時もあつた。できない子H君は児童会の会長であり、  
 全教科共に優秀な子であつたが、身体全体が肥満しており  
 臂力がそれに比して劣つていたように思える。そのH君十  
 月十六日の午後、時半頃できたのだ。午後の課業の一時間  
 は学級会を臨時に閉きH君のできた喜びの会とともに五回  
 人の学級全員が前まわりのできた花いの会を開いた。体育  
 の技術に限らずどんなにつかしの教科でもお互いに助けあ

ひ  
 ろ  
 ば  
 15

ひ  
 ろ  
 ば  
 15

い練習し、勉強すればできるのどを経験を通してからせ、明日からの学習の心構えについて話し合った。マツト運動、とび箱運動も同じように練習し、技術の向上を図っているが、みんなできるまでを目標にして指導しているので進歩は遅々として進まないが、子供達の胸の中に「やればできるのだ。」の信念を植えさせるべく毎日の指導に当たっている。今日も子どもたちは楽しみなからぶりとびの距離をお互に計りあい練習を続けている。

(つり)

横田先生は愛知県で毎日可憐い子供達と共に皆体育を目標にして通して居られます。これを読んで皆さんは何を感じられたでしょうか。横田先生はキネ研の会費で可ギネシオロジを教育の場に応用して実践して居られる様です。これはその貴重な実践の記録でもあります。ある方にはこの様なルポルタージュではキネシオロジと云う科学とは、いま、か異った感じを受けられたかもしれません。しかし、体育学にしてもキネシオロジにしても基礎的な学問研究と併行して実際の場への勇敢な利用が必要で、その利用、実行には精密な計画と細心の注意が大切でしょう。何しろ、生きた人間の身体を動かす事の科学なのです。これからも実践の場からこの様な記録を希望します。これが又、学問研究の基礎的な問題を出してくれるでしょう。

会員のみなさんへ

「新体育」四月号は、キネシオロジ特集です。この号には読后感なり、批判なりをよせませてください。

キネシオロジの諸問題

栗本 義彦

キネシオロジの歴史

宮畑 虎彦

体育とキネシオロジ

正木 健雄

生理学とキネシオロジ

石河 利寛

キネシオロジの解剖学

高木 公三郎

カ堂からみたキネシオロジ

小林 一敏

キネシオロジの実験

松井 秀治

以上

「体育の科学」三月号もキネシオロジの研究をのせています。

投手骨折について

高木 公三郎

野球の打撃についての考察(一)

菊地 哲男

砲丸投の 投擲角・最大距り・初速・反発の算出法

首藤 一夫

以上

これら 特集に限らず、関係書を讀まれた時は、またうお々に紹介の意味で、もう読まれたおとは研究討論のため、色々書いて送るし下さることを、お願いします。另外、お々にキネシオロジに關係する記事が出ているのが、わからないものですか。

談話室

各地とも キネ研の皆さんは 熱心に御研究のこと  
思います。各地のお便りを讀んでは 我々もニラッては  
いられないと考へ 無駄なことは思いつし 駄馬にむ  
ちらうていきます。

孔子様はいました。古いものを探りよく知り検討を  
加へるとこから 新しいものを見つけて行く。これが  
学の方法である。

確かに 学術は古い方から順番に新しいものへと 達  
致し累積してきます。全然何もないところから 新しい  
ものは出てはこないのでしよう。だから 我々は 古り人  
のやつて来た業績をよく知る必要があります。がそれ  
にしては キネシオロジイは新しいための 他の学術も林  
には古い本はみれません。でも 色々とジャーナル・カ  
ロ文獻・体育やスポーツの關係書を見ますと 思わぬ程  
いものがあることがあります。

最近目を通したもので(笑)て新しいものとは云ま  
せんが) あ、伝えます。

リサーチ・クオータリー(第30巻・第1号)にミネソタ  
大学のウイリアム・W・ヒンリー氏が「寛容の理論  
的明細(スタートの最適角度)」を論じています。彼は「寛  
容のスタートを映画にとつて スタート直前の競込  
み角を調べ。51.22までの間にあることをみています。

これには 体格・泳法・成績には明白な關係を認められて  
せんが 各人に適する角度が理論的にはあるべきだと云て  
います。結論としては 次の様なものをあげています。  
一 一般競争者のスタートの最適角度は 63°であること  
二 スタート台の高さを5フィートから 15フィートに下げら  
ると 跳込角は 64°に増し 5ヤードのタイムは 0.1秒増  
すこと。

三 色んな変数が一定なら 身体の重心の高さが 71寸か  
ら 64寸に下ると 角度は 1°増す。

四 長身者は 短身者より早く泳ぐ。 以下略

の林なことを云つていきます。測定の方法の精確度等を  
知るよしもありませんが 暑さに向いシーズンにもなり  
ますので 何らかの足に南北感とあります。

又、松井先生のやつていられる重心の測定の林なこと  
が ドイツでもされていりました。(ヘルバークルツア一九  
五八・一月号)

|| あとがき ||

|| かくば || 長い回 皆さんの手に 行そわわっていな  
い様でした。ある方は もうこればは 行されたいのかと  
思われたい方もおられます。ぼつたらかしていただくと  
りやんでした。でも、失礼しました。それから、なる  
べく三度よくおいていと思えます。  
次号には、競争の色んな問題についての手紙です。  
(H)